



# 日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.hitachi-hs-rugby-ob.com>

## ○ 春シーズンを総括して

監督 橋本 晃輝 (昭和60年度 第38回卒)

現在、ラグビーシーズン到来という時期ですが、高校ラグビーにとっては集大成の全国高校ラグビー大会県予選を控え、チーム作りの最終段階に来ているところです。

2月の県新人大会で無念のシード権を失ってから、自信を取り戻すべく春合宿(横浜高校)・ゴールアンウィークの強化合宿を行いました。怪我人が少しずつ戦列に戻りつつも万全とはいえないチーム事情でありましたが、大会期間中も強化練習にてOB諸先輩から指導を受け、チームの軸となるプレーを徹底的に鍛え上げました。

そして臨んだ関東大会県予選・県民総体兼国体予選では失ったシード権を奪還し、ベストメンバーで挑んだ春シーズン最終戦は、これからの日立一高の目指すラグビーの形を体現できた試合内容となりました。結果についても、関東大会出場はかないませんでした。昨年度のチーム成績を上回ることができ、選手・OB諸先輩・父母会・賛助会の皆様に支えられ、まさしくチーム一丸となり頑張った賜物です。

その後、更なる高みを目指して茗溪学園と合同練習を敢行。ラグビーに真摯に取り組む姿勢を学びました。そして、毎年恒例の菅平・会瀬合宿においてOB諸先輩方からいろいろな刺激をいただきました。ご協力ありがとうございました。

これから、最後の大会に向けて成果を上げるべく、一生懸命グラウンドを走り回っているところです。総力を挙げての戦いになりますので、引き続きご指導の程、よろしくお願いいたします。



## ○ 平成21年度 学年幹事会(定例総会)開催報告

前年度の事業報告、本年度の事業計画等を審議する学年幹事会が6月27日(土)に出席者30人(学年幹事25人、父母会5人)で開催され、近藤幹事長から議案の説明があり、原案通り承認されました。その要旨を抜粋しご説明いたします。

### 1. 平成20年度活動報告

#### 1-1 重点方針のフォロー

##### 1) “現役の支援強化でAクラスの確保”

部員も確保でき(総員32人)父母会、OB会も指導支援に、応援に多くの方が来てくれるようになり、各大会でベスト8を確保でき、総体で私立校の一角を崩し実力の第5位になることが出来た。

##### 2) 財政の健全化——当年度活動予算に見合う収入の確保

従来の会費に加えて今年度から会報の広告収入を導入したが、会費、広告収入とも目標未達成に終わった。

会費450千円(−50千円)、広告260千円(−40千円)、合計710千円(−90千円)

#### 1-2 重点実施項目のフォロー

計画した実施項目中、上記「収入確保」の未達以外は予定通り実施する事が出来た。

特に、父母の会の充実によりいろいろな場面で現役に差し入れがあり、各試合、練習に多くの父母が応援に来るようになった。

#### 1-3 会計報告

|       | 予算(千円) | 実算(千円) | 増減(千円) |
|-------|--------|--------|--------|
| 前年度繰越 | 1,656  | 1,656  | 0      |
| 当年度収入 | 800    | 713    | −87    |
| 当年度支出 | 840    | 1,088  | 248    |
| 次年度繰越 | 1,616  | 1,281  | −335   |



収入が予算未達成なのに支出がOB会報、訃報の増などで予算を上廻ってしまい、その結果、繰越金が前年残高より375千円減少してしまった。

予算管理の不行き届きをお詫びいたし、来年度は収入の範囲以内の支出に押さえるように努めます。

## 2. 平成21年度 事業計画

前年度の失敗を反省し、財政は緊縮予算とし活動は活発に行うことにする。

### 2-1 重点方針

- 1) 収入増大を図ること最優先とする。—「入るを図って」
- 2) 緊縮予算を遵守する。——「出るを制する」

### 2-2 財政予算

(単位：千円)

|       | 20年度実績 | 実算(千円) | 備 考                         |
|-------|--------|--------|-----------------------------|
| 前年度繰越 | 1,656  | 1,281  |                             |
| 当年度収入 | 713    | 850    | 会費500千円+広告収入300千円+グッズ販売50千円 |
| 当年度支出 | 1,088  | 850    | 会議費、OB会報、合宿援助、行事援助、慶弔 他     |
| 次年度繰越 | 1,281  | 1,281  |                             |

#### 【お願い】

支出は事務局ベースである程度統制できますが、収入はOB会員のご協力がなければ予算は守れません。

年会費の納入に、OB会報への事業広告掲載に、そして新しく導入するグッズ販売の購入にご協力をお願いします。

(幹事長 近藤雅年 記)

## ○平成21年度 春シーズンを振り返って 顧問 照沼 芳彦(昭和60年度 第38回卒)

### 【横浜高校合宿】

新チームによる開幕戦となる新人大会は苦い結果に終わりました。選手層の薄い日立一高にとって世代交代はターニングポイントとなります。昨年度のチームはFW・BKのバランスのとれたチームでしたが、新チームはBKのスピードが特化、その反面FWの経験不足が目につくチームとなってしまいました。そこで、一気にベスト4を狙うべく固定メンバーによるチーム作りを行い、確かにある程度安定したチームを作ることができましたが、一角が崩れればすべて破綻してしまいます。

5位決定戦の水城戦では、BKのポイントゲッターFB(茗溪戦で鎖骨骨折)、CTB、WTB3名の欠場により、本来の得点力はなりを潜め惜敗。シード権さえ落としてしまいました。また、昨年のELV導入によりモールの引き倒しが認められたり、スクラムからのAT・DFのラインが5m下げられたりなどシステムの変更を余儀なくされたうえに、3月には司令塔であるSOが練習試合中鎖骨骨折をするアクシデントに見舞われ、関東大会出場という目標を設定しながらも、早くも先の見えないトンネルに入り込んでしまいました。

そうした中、日立一高OBの鈴木克剛さんが横浜高校のラグビー部コーチに就任、合宿の話をいただきました。新たな再生の機会を求め、3月26日から28日(3泊4日)まで横浜高校合宿を行いました。ここで最も重点が置かれたのは、サポートメンバーの強化です。合宿中、横浜高校、横浜隼人、関東学院六浦、甲府工業と練習試合を行い、全員に数多く試合を経験させる機会を与えました。

それによって、全体的にコンタクト、コンタクトの意識が高まっていきました。また、新たな一面を開花させる選手も見られました。チーム内でも、キャプテン・バイスキャプテンが同室となり、チームを一つにまとめ上げ、強くしていこうとする動きも見られました。

最終日には、兄(昭和52年卒 照沼康彦)が駆けつけてくれました。自分の息子が、神奈川県内の向上高校で3年間ラグビー部に所属、卒業して一段落ついたため、今年一年間、日立一高の臨時コーチを引き受けてくれたのです。このときには、ハンドリングドリル、コンタクトドリルなど教えてもらいました。普段行っているグリットにおいても細かく、試合中気をつけなければならないことを取り入れ、身につけていくよう指導してくれました。



## 【第57回関東高校ラグビー大会 茨城県大会】

|       |     |         |                   |
|-------|-----|---------|-------------------|
| 1回戦   | 日立一 | 83 - 0  | 合同D (土浦工、藤代紫水、東風) |
| 2回戦   | 日立一 | 55 - 5  | 下館工業              |
| 準々決勝  | 日立一 | 7 - 125 | 茗溪学園              |
| 5位決定戦 | 日立一 | 40 - 14 | 勝田工業              |

GW (5/1~6) の大会期間中にも、兄が新しい日立一高のラグビースタイルを築くため、コーチングをしてくれました。スクラムではAT・DFがお互いに5m下がらなくてはならなくなったため、DFも待ちのDF・スライドDFが主流となり、それに伴いATでは、縦への攻撃あるいはアングルを内にとりながらフラットラインの早いパス回しの中でDFをずらしていくことが有効になってきます。そのためには、パスのスキルを上げることが重要になってきます。

モールの引き倒しもできるようになり、試合はラック中心になってきました。相手ボールであっても早くラックにし、サイドを固め、一気にターンオーバーをねらう。ラックサイドを固めることによりBKに対するDF力も上がるので、攻撃回数を重ねてもゲインオーバーができないという状況も出てきます。それにより、キックが多用されるようになり、キックDFも重要になってきます。

これらを効率よく行うシステムを確立するため、ミーティングを織り交ぜながらの練習が行われ、茗溪戦に照準を合わせ、急ピッチで改造が進みました。しかし、結果は厳しいものでした。ゲームメイキングを任されたSOが不在では、攻撃の糸口をつかむことができなかったのです。しかし、そうした中で明らかだったのは、茗溪がラックサイドを破ることが全くできなかったことです。ラックの裏へのハイバント、BKの大外を使った攻撃など、茗溪の引き出しをかなり開けさせることができました。

しかし、5位決定戦はさらに厳しいものでした。茗溪戦での大差は選手にトラウマのように残り、プレッシャーでつぶれてしまうのではないかとというほどでした。そのため前半は散々でしたが、システムに問題はないので徐々に流れが日立一高に傾いてきます。

残念ながら関東大会には届きませんでしたが、大きなものを手にした瞬間でした。

## 【平成21年度県民総体 (兼) 第63回国体ラグビー茨城県大会】

## 【Bブロック】

|     |     |         |      |
|-----|-----|---------|------|
| 1回戦 | 日立一 | 33 - 12 | 勝田工業 |
| 決勝  | 日立一 | 14 - 0  | 水城   |

またまたルール改正です。モールの引き倒しは危険ということで、できなくなりました。そのため、ゴール前でのモールの攻防が重要になってきます。しかし、これについても対応済み。さらに、このことを有効利用する手段の検討がなされました。DFのときにはモールをつくらせず、タックルで確実に倒す、敵陣ゴール前では確実にモールを形成し押し切る、ということです。まだまだ試行錯誤中ですが、ほぼ完成型が見え始め、さらにけが人も復帰しベストメンバーで試合に臨むことができました。

1回戦は、地域を考えて試合運びをすることができませんでしたが、モールについてはまずまずやれる、という手応えがありました。そして水城戦、点差こそ開きませんでしたが理想的な試合運び。これで日立一高スタイルが確立されたと思えた試合でした。また、それを陰で支えたのが、2年の岡でした。水城にモールをつくらせることなく、タックルによって一発で相手を倒していったのです。また、この試合には、3年が全員出場できました。

## 【茗溪学園との合同練習】

時代にマッチしたラグビーを展開するためには、新しいシステムの導入は必須となります。それを今回いやというほど感じさせられました。兄が来なければ、もしかしたらもっと迷走していたかもしれません。そこで疑問になったのが、全国のトップに立つチームはどのように対応しているのかということです。コーチ自身が海外で勉強しているチームもあれば、チーム自体が海外に遠征をしているところもあるということも聞きました。それでは、茗溪は？このことは私にとっても、橋本監督にとっても、解明しなくてはならない問題だったのです。そこで、橋本監督が直接、高橋監督に交渉をし、快諾していただき、その機会を得ることができました。この行動には、私たちの「もう一度全国に行きたい」という思いが詰まっていたのです。

選手たちは、さすがに弱気になっていました。声も出せません。さすがに茗溪は笑っていましたが、練習が始まれば、茗溪の選手が日立一高の選手をどんどん引っ張っていき、みんな必死になってついて行きます。3日間バスで通い、茗溪の合宿に参加させてもらいましたが、最後にはやっと日立一高が茗溪を煽るシーンも見られるようになりました。暑さのため倒れる選手もいましたが、質の高い練習をすることができました。

また、参加してわかったことですが、コーチとして筑波大の大学院生が練習に参加しているそうです。このことが、すぐに新しいシステムの導入につながっているのかもしれませんが。選手自体のスキルの高さにも驚きました。何気ない練習の中で、しっかりストレートランができること、パスをするときも崩れないのです。それに、タッチフットの時に見せる見慣れないムーブ。このムーブは、後に菅平合宿で兄に教えてもらうことになります。戦いにおいて最も戦果を上げることは、相手の知らないことをすることです。茗溪はそれができる・日立一高はそれができない。それでは結果は善戦しようとも明らかです。(まだ善戦していませんが。)

私が現役のときには、その環境がありました。大学でラグビーを続けている先輩方が夏集まって、大学のシステムを教えてくださいました。今はそれはありません。茗溪にはあります。だからこそ、私たちはその機会を貪欲に求めていかなくてはならないのだと感じました。

#### 【菅平合宿】

|           |       |      |           |      |       |
|-----------|-------|------|-----------|------|-------|
| 8/6 日立一   | 0-7   | 千葉高校 | 8/8 日立一   | 5-21 | 仙台高校  |
| 日立一 (1.5) | 0-5   |      | 日立一 (1.5) | 7-15 |       |
| 8/7 日立一   | 14-12 | 柏陽高校 | 8/9 日立一   | 0-19 | 清水南高校 |
|           |       |      | 日立一 (1.5) | 5-5  |       |

8月6日から8月10日まで(4泊5日)、菅平合宿を向井館で行いました。全国大会予選に向け、また新チームを見据え、選手を育てるはずの菅平合宿でしたが、2年の主力FW2名をケガで欠く中でのスタートとなりました。

集中力が足りないのか、食が細いためいつまでたっても体ができないからなのか、けが人が絶えることがありません。しかしながら、今年は3年が6人も合宿参加と心強い限りなのですが・・・。

今年の菅平は、何とも気持ちの沈むことが多くなってしまいました。霧・雨・雪・暴風雨。本来なら気持ちのいいはずの天然芝のグラウンドはドロドロ。向井館の方もすぐに使えるように砂を入れ、グラウンドコンディションを整えてくれるのですが、また雨。ほかの旅館では、人工芝以外使用禁止というところもあったそうです。向井館の方には感謝感謝です。

午前中の練習も何とかサブグラウンドを貸していただき、練習時間だけは確保することができました。インフルエンザも蔓延しており、いつもけが人ばかりの診療所には赤い顔をした患者さんも見られ、菅平に上がってこれない状況に陥ってしまった名門校もあったそうです。また、常総学院の石塚監督の訃報を聞いたのもこのころでした。

たくさんの保護者の方、OBも応援に駆けつけてくださいました。賛助会員の方々も。本当に心強い限りです。これで現役が頑張らなければ申し訳ありません。徹を飛ばされながら一つ一つスキルを高めていきます。照沼兄によるラグビースクール。吉野さんによる実演指導。益子さんの熱い言葉(益子さんはオール埼玉の監督になられたそうです。今回所用によりあまりいれませんでした。)これで選手のモチベーションが上がらないわけがありません。このときの生き生きとした表情は、OB会ホームページをご覧ください。

練習以外でも現役たちはがんばっています。3年は夜中遅くまで勉強を続け、マネージャーは明け方まで選手たちのため洗濯を続けていました。特に今回は雨続きだったので、洗濯は大変だったと思います。本当にご苦労さまでした。

最後に、この合宿で身につけたものですが、2次3次で使えるBKのムーブ。現在、このムーブを積極的に活用し、確実に成果を出しています。それから、新しいラインアウトの攻防です。次の大会ではお見せできと思いますので、ぜひ試合の応援にいらしてください。

#### 【会瀬合宿】

9月25日(金)、26日(土)に、今年も会瀬青少年の家で、次の大会に向け決起すべく合宿を行いました。学校で練習した後宿舎に向かい、父母会が用意くださったバーベキューをおなか一杯食べることができました。本当に数多くのお母さん方に集まっていただき、おいしい食事を作っていただき、ありがとうございました。吉田会長、近藤幹事長、尾又副会長より激励の言葉をいただき、賛助会員からはたくさんの差し入れをいただきました。

今回は、父母会の発案で福引きも行われました。それらに応え、部員からも力強い言葉を聞くことができました。さらに心強いことは、3年が更に1名復帰して7名になったこと。また勉強中の3年生3名が応援に駆けつけてくれたことです。今後は、完全復帰とはいきませんが、練習相手に来てくれる3年も増えそうです。

その後は約3時間のミーティングが行われました。今回は橋本監督が資料を作成し、日立一高の基本戦略、

というよりラグビーの試合運びの基礎についての説明がなされました。これにより残念ながら、生徒の理解力の低さが露呈されてしまいました。しかし、大丈夫。基礎学力のある日立一高生です。今後、このような機会を設ける必要はないはず。と祈っています。

次の日は、会瀬海岸で気持ちよく5対5のバトルを行い、学校に戻り細かい確認をして終了しました。



## ○ 父母の会活動報告

父母の会会長 深谷 美津江さん（3年生：深谷竜二郎君の母）

昨年の全国大会予選終了後の12月に父母の会の役員を引き継ぎ、顧問の橋本先生、照沼先生、OB会の方々と連携を図りながら父母の会の活動を行ってきました。活動報告という題名ですが、どちらかというと日立一高ラグビー部の追っかけ体験記として、昨年12月からの活動を振り返ってみたいと思います。

### 【蹴り初め】

昨年12月に副会長：尾又さん、小野さん、会計：丸橋さん、鈴木さん、会長：深谷の新役員で活動を開始しました。毎年恒例の蹴り初めでは、多くの保護者の方に参加していただき、白亜会館で豚汁作りをしました。保護者は包丁、まな板持参で大量の野菜切りに奮闘しました。100人分の豚汁を作り、集まっていたOBや現役の生徒、保護者の皆さんと、おいしく完食しました。

### 【新人戦開始】

新人戦1回戦の下館工業戦。生徒たちがグラウンドを疾走しトライをするたびに大歓声が響きました。天気にも恵まれ気持ちよく観戦し、勝利に満ちた試合でした。2回戦の茗溪戦にも多くの保護者の皆さんがト伝の縣運動公園まで駆けつけてくれました。茗溪から3点取ったことがちょっぴり嬉しい試合でした。次の水城戦は怪我人が多くベストコンディション、ベストメンバーで臨めず敗れてしまいました。雨の中、ト伝からの帰り道がやたら速く感じられました。

### 【3年生卒業】

11名の3年生が卒業。前会長の長谷川さんをはじめ3年生の保護者も当然父母の会から卒業してしまい、寂しさと不安が募った3月でした。（でも、長谷川さんほか何人かの方たちは、賛助会員として戻ってきてくれました。）

### 【関東予選】

水農のグラウンドで行われた1回戦。日立一高の小旗が数多くはためいていました。OBや保護者が応援する中、生徒たちの頑張る姿が素敵でした。2回戦の行われる茎崎グラウンドまでドライブを楽しみながら応援に行ってきました。3回戦は雨のト伝グラウンドでの茗溪戦でした。大差で負けましたが、1トライ1ゴールを奪うことができて、速くまで応援に来たかいがあったと感じた試合でした。勝田工業との5位決定戦は、5月にしてはとても暑い日に行われました。生徒たちが暑さでばててしまわないか心配しながら観戦していましたが、最後まで気持ちの入った素晴らしい試合で、40対14で勝ちました。

### 【国体予選】

1回戦の勝田工業戦に勝ち、2回戦は前回負けている水城戦でした。この日は朝から大雨で傘をさしていても濡れてしまうような悪天候でした。3年生にとっては全員がそろって試合に出られるのはたぶん最後になるだろうという大事な試合でした。3年生の保護者がたくさん応援に来ていました。生徒たちのプレーに一喜一憂しながら大声で応援しました。水城に勝ち、Bブロック優勝を果たし、帰りは食べ放題のお店に寄り、満腹になって、生徒たちも満足して帰途につきました。

### 【菅平合宿】

3年生も6名が合宿に参加することになり、3年生の保護者も初めての菅平を体験してきました。天気にはあまり恵まれませんが、1泊2日の菅平ツアーを楽しんできました。

練習や試合を観戦したり、OBの方々とお酒を酌み交わしたり、菅平観光をしたりと充実した2日間でした。

来年も行こうかな?と少し思っています。

父母の会では、生徒たちが部活動に打ち込めるようにサポートしていきたいと考えています。今後ご協力をお願いします。



【中列、右から2人目が深谷会長】▶

## ○「ラグビーと出会って!!」

中野 正文さん(平成20年度第61回卒部員父兄/賛助会員)

日立一高ラグビー部OB会の皆様には益々御健勝の事とお慶び申し上げます。今年度新設の賛助会に入会させて頂きました中野と申します。

ラグビー未経験の私が伝統ある日立一高ラグビー部OB会会報に寄稿するなどおこがましいのですが息子が入部した事がきっかけでこのような貴重な機会を与えて戴いたと思い3年間の思い出を綴ることにします。

私とラグビーの出会いは長男が日立一高でラグビー部に入部した事で始まりました。と言ってもラグビー未経験の私はルールもよく分からない程だったので最初からラグビーに魅せられた訳ではありませんでした。今思うときっかけは、試合を見に行く度に毎回のように応援に来ているOBの方とお会いしその熱心さに、よほど魅力のあるスポーツなのだろう、と興味を持ったことと長男が2年生になって直ぐOB会主催の父母の顔合わせ会があり、その席で古豪復活を願う熱い思いや早大監督を勧められた益子さんの講演会をお聞きし、「面白そうなスポーツだな〜」との思いが決定的になりました。それ以降、公式戦は勿論のこと練習試合や時には通常の練習まで見に行くようになりました。そのうちOBの方とも親しく話をさせて戴けるようになりルールやプレーの良し悪しなども教えて戴き益々ラグビーが面白くなり、ラグビーは私の生活になくてはならないものになりました。



日立一高の試合を何回か見て私が最も印象に残っているのは長男たちが3年生の時の関東大会県予選ベスト4をかけた東洋大牛久との試合です。この試合は開始早々、一高の怒涛の攻撃で19対0とリードし、「ひょっとして勝てるのでは・・・」との思いが頭をよぎりました。しかし、前半の途中から徐々に相手ペースとなり連続6トライを取られ形勢逆転。万事休すかと思ったらここから粘って後半の途中からは一高の流れとなり終了間際に連続2トライを返して、あわや逆転か、というところまで行っただけですが最終的には1トライ1ゴール差で敗れました。私立の強豪校にあと一歩まで迫っての負けだったので悔しい思いが強かったのですが、反面2年前にラグビーを始めた生徒が殆どで、15人ぎりぎり試合に出て私立上位校に全く歯が立たなかったチームが良くここまで成長した、との思いも持ちました。この調子で3年生が最後まで続ければ、父母の顔合わせ会でOBの方が言われていた、「古豪復活として先ず私立4強の一角に食い込みたい」との願いが達成されるのでは、とも思いました。

一方で一高は県下有数の進学校でもあり受験を控えた3年生は6月の国体予選が終わると殆どが引退してしまうのが通例でこの年も1人残るか・・・2人残るか・・・、というところでした。我が家は私も家内も高校で部活をやっていた、特に家内はバスケットボールでインターハイ出場を目指していた程だったので長男に、「ここまで頑張って来て引退したら悔いが残る。最後まで続けた方がいい」とアドバイスしたのですが本人は受験への不安が大きかった様で、結局全国大会予選前に引退しました。

今回の長男の受験を通して最後まで部活を続けるかその前に引退するか、最終的にどちらを選ぶかは極めて難しい選択である事を痛感しました。しかし、この難しい選択で今年の3年生は7人が最後までラグビーを続ける道を選んだと聞きました。敢えて困難な道を選択した今年の3年生には心から応援したいと思います。県内では茗溪学園、清真学園のように花園目指して最後まで部活をやっているが大学進学にも実績を出している学校もあります。また、進学校として有名な昨年の香平合宿で試合をした群馬県の高崎高校、今年の合宿で対戦した神奈川県柏陽高校なども同様です。

日立一高も今まで以上に文武両道を目指し県北の雄の呼び名に負けない様に更なる飛躍を期待します。

今後も賛助会員として日立一高ラグビー部を見守らせて戴きたいと思います。

頑張れ、日立一高!!

## ○菅平合宿に同行して

「今年の菅平は毎夕『集中豪雨』に見舞われ」

OB会幹事長 近藤 雅年（昭和32年度 第10回卒）

今年の菅平合宿は先生2人、3年生6人、2年生12人、1年生8人、マネージャー3人の合計31人で、8月6日（木）から10日（月）の4泊5日、太田一高と合同で行われました。特筆すべきは3年生が6人も残って来てくれたことです。

既に、OB会ホームページ上に合宿参加者のOB会員、父母会員からご感想ご意見が寄稿されておりますが、おさらいを含めて本誌に私からご報告させていただきます。



### 【悪天候に見舞われ】

吉田会長、尾又副会長そして私は8月6日（木）夜10時に日立を出発。名ドライバー尾又氏の運転で笠間、小山、前橋を通過するあたりから小雨が降って来たため溪谷越えの中之条、長野原方面から高崎、安中、碓氷方面に方向変換し、車を走らせていると徐々に大雨となり、更にワイパーが効かなくなるくらいのどしゃ降りとなりました。田舎で真夜中のためお店も開いていず、駐停車も出来ず、猛スピードの大型トラックに追い越され冷や冷やものの走行で明け方にやっと菅平に到着しました。

途中のコンビニ情報で長野原方面は雨で道路が遮断された事を知り、碓氷方面を選び正解だったと3人で顔を見合わせました。実はここからが今回の合宿の悪天候の始まりでした。

朝8時に現役組の宿舎に行き、9時にOB益子氏と合流し、グラウンドに出て驚きました。

芝生はグリーンに茂りとても良い状態に見えたが、近づいてみると、どぶ臭い臭いが充満していて、グラウンドに立つと芝生の下はどろどろの田んぼ状態でありました。これでは少し乾かさないと使用できないので午前中は本番グラウンドは使用せず、サブグラウンドでの練習とならざるを得ない状況でした。

7月下旬から毎日夕方なにわか雨が降り、日中の天候も曇りが多く、乾くときが無かったためと聞かされました。

午後2時から本番グラウンドで練習と練習試合があったが、皆で走ると直ぐに田んぼ状態となり、全力疾走は出来ませんでした。

それでも怪我をしないよう気をつけてやっていると、今日も4時過ぎに山の方に雲が下りてきたとたん、大粒の雨が降り出し、10分も立たないうちに土砂降りとなり、それが2時間くらい降り続けるのでした。

土砂降りを越え、バケツをひっくり返したような雨が2時間も降ると、道路は川と化し、濁流で人も車も通る事が出来なくなる光景を2日続けて見ました。（私の記憶ではこんな大雨は初めてで、山岳地帯の洪水、がけ崩れはこんな時に起きるのだととても不安でした。）

菅平高原は海拔1,300mに位置し、夏季は平地が30度を越えるとき、高原は20度以下で高原の涼風が吹き毎日快晴が続く所のため、全国のラグーマンが集い、合宿をする所で有名なのに、今年は地元の人も驚くほどの最悪なコンディションでした。

### 【多くの指導者、応援団が集まり】

昨年から父母会が活動するようになり、会長を中心に多くの父母会の方が「わが子を思い」応援に来てくれました。（深谷さん、尾又さん、丸橋さん、小林さん、岡ご夫妻さん、高島さん、小野さん、井本ご夫妻さん、計13人）

今年は昨年父母会の組織を作ってくれた賛助会からも「わが子の母校を思い」来てくれました。（長谷川ご夫妻さん、中野ご夫妻さん、計4人）

OB会役員として、みんなの激励にいつものメンバーが集いました。（吉田会長、尾又副会長、近藤幹事長、計3人）

技術指導にはいつもの一流のメンバーが熱意をもって「どうしても関東大会に出させたい」と忙しい中、後輩を思い来てくれました（照沼氏、益子氏、吉野氏、金澤氏、計4人）

以上合計24人の方（一部日帰りの方）が同じペンションに泊まり、日中は現役に帯同し指導、応援に行き、夜はアルコールが入った懇親会で交流を深めました。父母会の方は昼休みにOBの引率で菅平高原の一部の名所めぐりをし、サマーショップでお土産買いもしました。昼食をとるのにどこも混んでいて1時間以上待たされ、やっと食べた事も菅平の思い出でした。

## 【現役の練習、練習試合はいまいち】

上記のような悪コンディションのグラウンドでは合宿本来の体力強化、技術向上のための練習、練習試合ができず、消化不良に終わったのは残念でした。その中で気づいた点を列記します。

1) 3年生が7人残り6人が合宿に参加してくれたのは近年にない快挙でした。この傾向が来季以降も続けられるかはこのメンバーの出来次第といえます(戦績、進学)

この合宿では下級生の応援的動きでリーダー的動きはしていなかった。残ったからには3年生がチームの主体でリードしなければならないのです。出来れば全国大会までチームのキャプテンは3年生が続けた方が纏まるのではないのでしょうか。

2) 最近、怪我人が多くベストメンバーでの試合が出来ない事が多い。入部した時に格闘技であるラグビーに合った体力、走力がないので、人一倍の努力が必要となります。全体がひ弱なので仲間と同じ練習だけでは体力・走力のあるほかのチームには追いつけません。この理屈を理解して徹底した走り込みをしてスピード、スタミナをつけてもらいたい。

3) 試合中に接触プレイがあっても痛さを我慢し、倒れたり、痛さを表に出さないように努めていただきたい。サッカーは接触した時に反則をもらおうと倒れる事が多いが、ラグビーは接触する(タックル)ことがゲームそのものなのです。痛いのを表に出すのは弱い事を出している事になり敵から狙われます。要注意!です。

大学、トップリーグの試合を見て我慢していることも学んでください。

## ○第5回OB会長杯ゴルフコンペの開催について

スポーツの秋到来、ゴルフシーズンがやって参りました。恒例となりました日立一高ラグビー部OB会の第5回ゴルフコンペを下記の通り開催いたしますので、挙ってご参加くださいますようお願いいたします。

先に今迄参加している方にはご案内しておりますが、それ以外のOB会員の方で参加したいという方は、事務局宛ご連絡ください。折り返し今回の詳細なご案内をお送りいたします。

1. 日 時 11月7日(土)
2. 場 所 五浦庭園カントリークラブ
3. 費 用 11,500円(昼食代込み)
4. 宿 泊 希望者はゴルフ終了後平潟の民宿で宿泊・懇親会を行います(会費炊代込み)

(ゴルフコンペ事務局 近藤 雅年)

## ○OB通信

このコーナーは、概ね20~30歳代・40~50歳代・60歳以上の各世代のOBの方々に、お一人ずつ昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。今回は、山形暁志郎さん、山本宏さん、鈴木祐輔さんにお願しました。お忙しい中ありがとうございました。

## 「わがラグビー人生の回想」 山形 暁志郎(昭和33年度 第11回卒)

小生、古希を迎え、高校から今日までの55年のラグビー人生を振り返ってみることにしました。

久慈中学時代は野球部で3年間を過ごし、高校に入学早々に白亜校舎の屋上に呼び出され、3年生の先輩に強制的にラグビー部に入部させられた。新入生は明道氏、西野氏、河野氏(故人)そして小生の4人でした。6畳くらいの薄暗い部屋は汗臭く、タバコの臭いもし、汚れたスパイクや破れたジャージなどが雑然としていて部屋に入るのに躊躇するほどでした。

ラグビーの技術を学ぶことなく毎日体力・走力強化の練習ばかりでした。

1年生の途中で何人かの3年生が途中で退部させられ、夏頃からレギュラーとして試合に出るようになり、戸惑いながらも試合経験を積み小生がスタンド・オフ、河野氏(故人)がハーフとなり、毎日の練習後、二人で陸上部の砂場を借り河野氏(故人)のダイビングパスを私が受ける練習を繰り返し続けた。後にこの練習が本番に生かされ、試合では正確なダイビングパスが殆どでした。

1年生の時の吉田主将、2年生の時の高木主将、3年生の時の明道主将と良きキャプテンに恵まれ、大和田先生、鶴巻先生の指導の下で、本山の日本鉱業への出張練習、会館グラウンドでの日立製作所との練習試合、茨城大学との練習試合など大人に挑み、一方、田所先生(故人)率いる太田一高に出向き合同での



夏合宿を行うなど恵まれた練習の成果として良い成績を残せた事が良い思い出になっています。

高校卒業後、法政大学に入りラグビー部に入部しました。幸いにも1年生の時(昭和34年)法政大学ラグビー部が創部35年目にして関東大学ラグビー戦で優勝して頂点に立ち、夢にまで見た秩父宮杯の銀杯で美酒を部員108名で回し飲みしたことを思い出します。それから8年間は法政大学ラグビー部の第1期黄金時代で、お陰様で小生も3年生からレギュラーとして秩父宮ラグビー場で活躍できた事を誇りに思っています。

昭和38年に卒業し、母が他界した事もあり、地元に戻り家業(コンクリートブロック製造・販売、施工)に従事した。その当時、日立商業高校の先生であった田所先生(故人)の教え子のコーチをし、一方で、田沢、吉田先輩方とボバイクラブの設立に参加しました。

昭和49年の茨城国体では吉田監督の下でコーチをさせていただきました。又、常陸不惑クラブラグビーチームの各大会に約30年間参加してきましたのも良きにつけ、悪きにつけ先輩・後輩諸氏に恵まれ、楽しいラグビー人生を送らせて頂きました。

現在もラグビー仲間10人でつくった酒湯会でゴルフ、温泉旅行、バーベキューなど2ヶ月に1回の割りて楽しんでいます。

最後に現役の先生・生徒に一言アドバイスします。

技術向上と共に精神面の鍛錬が必要で、ラグビーは15人で戦う競技だけに大切な事は個人プレイをカバーする人と人の交わり=チームの和が必要なのです。(人が次から次へとボールをつないでトライする)その和は日常の練習から作り出すもので、15人でカバーし合う・助け合う事が原点です。

#### 「一高ラグビーの思い出」 山本 宏(昭和51年度 第29回卒)

中学時代、途中で挫折してしまった運動部。高校から部活動(運動)を始める為には中学校にはない部活しかありません。

親父の影響?等もあり、日立一高ラグビー部の門を叩きました。体力も無かった自分は、なかなかみんなについていけませんでした。何とか最後まで続けることができました。

思い出と言えば、2年次の春の県大会で「新人戦優勝」をしたことです。

決勝戦の相手は県北の雄、北茨城高等学校(北高は、同年の全国大会でベスト8になった強豪チーム。)北高には、前年(2年生)の夏合宿練習試合で、ほぼ完封に近くコテンパンにやられました。そして、翌春の新人戦を迎え、1回戦・2回戦と順当に勝ち進み、決勝戦の相手は、その北高。県北同士と言うことで、「会瀬グラウンド」での決勝戦となりました。

戦前のゲバ評は、体力差、前年夏の結果等があり北高の絶対有利でした。しかし、前半は6対10と北高が先行しましたが、後半のトライとペナルティで逆転。21対14で見事逆転勝利を取る事が出来ました。

続く3年春の関東大会(開催場所:東京)にも出場することが出来ました。残念ながら惜敗してしまいましたが、天気、グラウンドコンディション等も悪く、試合会場も相手の大泉学園高校、と完全にアウェイの状態・・・お天気だったら、・・・と思うところです。また、大会前日の出来事・体験(この紙面への記載は出来ませんが・・・)も一つの大きな思い出です。

また、在学中に顧問の先生が毎年替わった、激動の年?でもありました。(部活顧問の先生が毎年変わる?なんてことが考えられますか?)

1年次:松本先生。2年次:内田先生。3年次:滑川先生。と3人の先生にお世話になりました。コーチ陣に1年次より尾又さん、吉田さん、佐藤さん、山形さん等々皆さんもよく知っている大先輩が面倒を見てくれました。今の我々があるのも、彼ら大先輩のお陰と言っても過言ではないでしょう。

ラグビーの精神『ONE for ALL All for ONE』は、私の心にしっかりと刻まれ、自分の人生に大きく役に立っています。



#### 「ハンドオフでタックルをはずされたのは私です」 鈴木 祐輔(平成7年度 第48回卒)

私がラグビーに出会ったのは中学3年の深夜、TVで放映されていたオールブラックスの試合を見たことからだったと記憶しています。オールブラックスの対戦チームの記憶はありませんが、グラウンドを縦横無尽に走り、相手を弾き飛ばし、クールにトライを決めるその姿に感動したことを覚えています。

その後すぐに日立一高がラグビーの名門校だということを知りました。

中学では野球をやっており、なんとなく未練もありながら、グラウンドに見学に行くと、がっちりごっつい恐ろしい先輩から声をかけてもらい、「おれも中学は野球だったけど、ラグビーのほうがおもしろいぞ」と言われ、決意を固めたのでした。今思うとがっちりごっつい先輩は一つ上の原正紀氏でありました。

1年時は清川先生から熱い指導を受け、2年次からは吉沢先生の大膽な指導を受け、さらには創部50周年がありと、色々な点で変革の時代を過ごしたと言えるのではないのでしょうか。

当時、今となっては恥ずかしい気もしますが、びちびちのラグバンが流行で、「1年はスパッツ禁止!」とお達しから、ランバス中にT塚がいつもはみ出させ、雨の練習ではN山が訳の解らないことを叫びながらセービングをはじめ、なぜか大勢が付き合う羽目になり、ラグバンの中で泥がじゃりじゃりとして、辛い思いをしたことなど、なんとも個性的な同級生に恵まれ、楽しい日々であった思い出しています。



2年次には関東大会へ出場し、何とかウィングのポジションをもらい試合に出ていました。しかし、ブロック決勝で惜しくも敗戦。前述の原氏は、今でもお酒を飲むたびに私のタックルミスが敗戦を決定的にしたと言っています。これまで原氏にミスを認めたことはありませんでしたが、あまりにも毎回しつこく言われるので、ここで謝りたいと思います。

「ごめんなさい、ハンドオフでタックルをはずされたのは私です。。。」

過去のミスはさておき、現在は、仕事の傍ら茨城大学にてコーチを務めています。花園経験者からラグビー初心者まで、様々な経験を持って入部してくる大学生に教えることは、簡単なようで難しいです。個人個人の経験を尊重しつつ、チームとして目指す形を徹底することの難しさを感じています。学生と向き合い、話し合い、体をぶつけながら分かりあっていくことが大切だと感じています。よく考えれば、私が高校生のとき、木下さんがいつもアフターファイブにやってきて、まず黙々と腕立て伏せをし、そして本気でぶつかってくれたことが思い出されます。今、私が学生に対し、同じようにやるべきなのだと感じています。

そんなこんなで、最近は高校の同級生とラグビーをする機会もめっきりと減り、あの辛く楽しかった日々が思い出されます。30歳を過ぎ、少しぶち当たるとあちこちが痛くなったり、筋肉痛や肉離れなどをしながらラグビーを続けていますが、最近の日立一高の活躍ぶりを嬉しく思い、これからどのようにして、日立一高ラグビー部の力になれるかを考えているところです。私の教える茨城大学ラグビー部にも岡部君や長谷川君といった、若手OBも在籍しています。お互いのチームがレベルアップするために連携を図りつつ、私自身も高校生、大学生とぶつかり合い、様々なことを感じながら、成長できたらいいなと思っております。

最後に、原さんへ 私がラグビーというすばらしい世界に一步踏み出せたのもあなたのおかげ。感謝しています。そして…謝るから、もうあまり責めないでください。

## ○全国大会県予選の組み合わせが決定しました。

平成21年度全国大会県予選の組み合わせが下記のとおり決まりました。

10月17日(土) 12:50 堀原運動公園競技場 vs 合同A(緑岡+茨城東)

10月24日(土) 12:50 堀原運動公園競技場 vs 太田一と水戸農の勝者

10月31日(土) 12:50 堀原運動公園競技場 vs 茗溪学園

順当にいけば、今年度4大会中、3回目の茗溪学園との対決になります。シード権は新人戦と関東大会予選の結果によるため、本校は今大会はノーシードとなりましたが、その分、数多くの試合を経験できるので、本校にとっては望むところと言えるでしょう。

今年は、3年生が13人中7人残ってくれました。例年にない戦力の厚さで、茗溪学園に果敢に挑んで欲しいと思います。

## ○グッズ作成・販売について

学年幹事会の報告にもありましたが、OB会の運営費の一助とするため、日立一高ラグビー部(OB会)のオリジナル・グッズの作成・販売を計画しています。Tシャツ、帽子、マフラー、タオル、ネクタイなど著名高校や大学等では様々なグッズを販売し、活動費に充てています。

販売に当たっては、ぜひ売り上げにご協力ください。また、なにか良いアイデアがありましたら、事務局までお寄せください。

## ○計 報

初代OB会幹事長代理をしておりました齊藤廣氏にありましては本年5月に70歳で他界されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

氏は日立一高ラグビー部OB会の役員として、OB会の運営、現役の指導に永年努めていただきました。ご冥福をお祈り申し上げます。

〔注：OB会員の計報はOB会特別会員及びOB会役員歴任者に限らせていただきます〕

## ○「誌上広告」について

OB会の財政安定化をはかるため、今年度もOB会員等が経営する会社等の広告を掲載しています。(次頁参照)

広告料は年2回発行で1口1万円以上ですが、今回は昨年度を上回る12人のOBとOB会役員・父母の会の皆様から合計221,000円のご協力をいただきました。(山形暁志郎氏(昭和33年度卒)からは、今回も広告掲載無用でご寄付をいただいています。)

ご協力をいただいた皆様には、この誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。

## ○編集後記

今号も、ようやく発行に迫り着くことができました。10月中旬に全国大会県予選が始まることは分かっているので、目標は9月下旬発行なのですが、なかなか編集作業が進まず、1回戦に間に合わせることはできませんでしたが、なんとか2回戦が行われる前には、皆様のお手元に届くことと思います。

今年は、最終的には7人の3年生が全国大会県予選に出場することになりました。受験など将来への不安を抱きつつ、過去数年間の慣例を打破し、部活動の全うを決意した英断には、心からのエールを送りたいと思います。

日立一高での部活動は3年間ですが、ここで培われたラグビー精神は、今後の人生の中できっと生涯の宝となることでしょう。現役部員の今後の活動と飛躍を、私たちOBがそれぞれの局面で支援・応援していきましょう。

(編集スタッフ一同)



### ★日立一高ラグビー部OB会報 第12号★

発行責任者：幹事長 近藤 雅年(昭和32年度 第10回卒)

編集者：幹事 松永 啓(昭和40年度 第18回卒) 柴田 和則(昭和57年度 第35回卒)

笠井 知洋(昭和59年度 第37回卒) 菊池 敬(昭和61年度 第39回卒)

本田 浩一(平成2年度 第43回卒) 金澤 勉(平成4年度 第45回卒)

事務局：〒317-0065 日立市助川町3-7-4 木下俊雄 【電話】0294-21-4890 (FAX同じ)

## 石井米店

店主 石井 博美

(昭和41年度 第19回卒)

〒318-0021 高萩市安良川270番地

電話：0293-22-3157

## 株式会社 岡部工務店

代表取締役会長 岡部 英男

(茨城県ラグビーフットボール協会会長)

〒316-0003 日立市多賀町2丁目10番7

電話：0294-36-1681

## 金沢酒店

店主 金沢 隆

(昭和39年度 第17回卒)

〒319-1413 日立市小木津町1丁目27番23号

電話：0293-43-3434

## 秋光電気工事株式会社

代表取締役 秋山 啓市

(昭和49年度 第27回卒)

〒316-0003 日立市多賀町1丁目20番22号

電話：0294-36-1987

## 株式会社 トップベイサービス

代表取締役 後藤 秀次郎

(昭和41年度 第19回卒)

〒272-0144 市川市新井3丁目15番28号

電話：047-396-7176

## 村山商店

代表 村山 功

(昭和42年度 第20回卒)

〒319-1702 北茨城市大津町2731番地1

電話：0293-46-0172

## 日立一高ラグビー部OB会 役員会

会長 吉田 尚一

(昭和31年度 第9回卒)

## 茨城クリーン有限公司

代表取締役 夏井 一郎

(昭和37年度 第15回卒)

〒310-0804 水戸市白梅3丁目10番5号

電話：029-231-7741

## 尾又運送株式会社

代表取締役 尾又 篤 (昭和36年度卒)

取締役 尾又 彰彦 (平成2年度卒)

〒316-0035 日立市国分町3丁目11番7号

電話：0294-36-2856

## 株式会社 カントウスプレー

専務取締役 本田 浩一

(平成2年度 第43回卒)

〒317-0054 日立市本宮町3丁目32番12号

電話：0294-22-0807

## 鈴菊商店

代表 鈴木 真治

(平成2年度 第43回卒)

〒319-1701 北茨城市平潟町293番地

電話：0293-46-5110

## 肉の登利要 日立店

店主 古口 利博

(昭和39年度 第17回卒)

〒317-0073 日立市幸町2丁目8番14号

電話：0294-21-0971

## 和光薬局

管理薬剤師 高橋 晃太郎

(昭和61年度 第39回卒)

〒316-0024 日立市水木町1丁目5番7号

電話：0294-53-3571

## 日立一高ラグビー部 父母の会

会長 深谷 美津江

(ほか 保護者一同)

私たちは、日立一高ラグビー部を応援しています！